

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH362
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 5
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	金島 裕樹, 山中 博之, 戸部 悠紀
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	本科目は、頭部・体幹の損傷について実習形式で学ぶ。 日常、比較的遭遇しやすい顎関節脱臼や肋骨骨折については実技実習を行う。 また、柔道整復師の院外活動を紹介しながら、 応急処置の重要性について学び、 グループワークで市民健康講座の講師を疑似体験する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	柔道整復師として、様々な経験を有する教員がその実務経験を活かして実践的教育を行う。 担当教員 金島裕樹 整骨院院長 / 整形外科勤務 / 東京オリンピックメディカルスタッフ 戸部悠紀 元大学附属接骨院院長 柔道整復師 山中博之 接骨院院長 柔道整復師
到達目標	「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している」、「他者と協同して問題を解決するための能力を身につけている」、「人々の健康および柔道整復の発展に貢献しうる主体的な学修能力を身につけている」ことを獲得するため、カリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の技術を学び、実践力を養う」こと、および「総合的な能力を養う」ことを目的として、下記の到達目標をあげる。 1. 頭部と体幹の損傷において、柔道整復の業務範囲を理解し、その範囲内の技術力を高めて業務遂行能力を養う。 2. 柔道整復師の院外活動についても知識を深めて、社会から必要とされる人となれるように、演習を通して実践力を養う。
計画・内容	第1-2回 ガイダンス 柔道整復師の院外活動（スポーツ現場） 第3-4回 柔道整復師の院外活動（市民健康講座講師） 第5-6回 グループワーク プレゼンテーションの作成 第7-8回 グループワーク プレゼンテーションの作成 第9-10回 頸部の軟部組織損傷 第11-12回 背部・腰部の軟部組織損傷 第13-14回 グループプレゼンテーション 健康講座講師の疑似体験 第15-16回 グループプレゼンテーション 健康講座講師の疑似体験 第17-18回 臨床における様々な固定法

計画・内容	<p>第19-20回 顎関節脱臼</p> <p>第21-22回 肋骨骨折</p> <p>第23-24回 顎関節脱臼と肋骨骨折 習練</p> <p>第25-26回 理解度の確認</p> <p>第27-28回 理解度の確認</p> <p>第29-30回 頭部・体幹の損傷 総括</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料など適宜活用する。 ・必要に応じて資料の配布を行う。 ・バディやグループでワークを行う。
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら問題の発見・解決に取り組むことができる能力を身につけるためにアクティブラーニングを取り入れた授業を行う。 ・バディやグループにて、課題についてのディスカッションを行い、協同（協働）の中から自身の役目・役割を認識し、目的の作業を完結させる。
授業時間外の学修	<p>予習：講義予定の内容を確認し、教科書に該当箇所がある回は、当該箇所を熟読しておくこと。</p> <p>復習：実習で得た知識をノートにまとめる。</p> <p>実習により得られた技術は反復練習を行い、技術力向上につとめる。</p> <p>（合計60時間程度）</p>
教科書・参考書	<p>「柔道整復学・理論編」南江堂</p> <p>「柔道整復学・実技編」南江堂</p> <p>「包帯固定学」南江堂</p>
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・グループプレゼンテーション：50% ・口頭試問を含めた実技試験：50% <p>成績評価対象者は、授業実施数の2/3以上出席している者とする。</p> <p>上記の成績評価方法にて、本科目の到達目標に達しているかどうかを判定し評価する。</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からのコメントをもとに、授業への反映や資料配布等を行う。 ・学生の発言の都度、コメントを行う。 ・学生によるプレゼンと実技試験については、次回授業開始時にフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	<p>臨床現場では、学んだ知識・技術を実践できることは無論、教科書的なことだけではない病態の把握や応用力が必要となります。そして患者中心の医療を実現するためには、多様な学びにより視野を広げ、柔軟な思考力を養うことも重要です。将来、社会から求められる人となれるように大きなベースを築きましょう。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせ実施する。</p> <p>プレゼン日が非対面となった場合は、発表動画を録画して提出：50%</p> <p>実技試験日が非対面となった場合は、オンライン試験もしくはレポート提出：50%</p> <p>成績評価対象者は、対面授業とオンライン授業（課題学修含）の実施数の2/3以上出席している者とする。</p> <p>上記の成績評価方法にて、本科目の到達目標に達しているかどうかを判定し評価する。</p>